

2001/6/1

渡邊 浩之

\* 「重点領域・項目」の具体的事例について

1. 供給、輸送、変換、消費のエネルギー・トータルシステムの変革をもたらす研究開発領域では

- ・「水素燃料社会の早期実現のための研究開発」を重点とすべきと考えます。狙いは、総合効率3倍<sup>\*</sup>、完全クリーン社会の実現、CO<sub>2</sub>大幅低減と、さらにエネルギー源の多様性により国のエネルギーセキュリティ確保にあります。国際的な産業競争力向上のために、エネルギーコストを1/3<sup>\*</sup>にすることも重要と考えます。
- ・「新ロジスティクス確立のための研究開発」も重点とすべきと考えます。物流コストは産業基盤に大きく影響するため、狙いは、効率3倍<sup>\*</sup>、輸送コスト1/3<sup>\*</sup>とし、道路インフラの整備と、ITSを活用した新しい物流システムにより、実現の可能性を追求すべきと考えます。

2. エネルギーインフラを高度化していくため必要な研究開発領域では

- ・分散型エネルギー源として「分散電源システム」を重点とすべきと考えます。狙いは、例えば燃料電池やマイクロガスタービンのコージェネを用いて効率2倍<sup>\*</sup>達成であり、ピーク需要の吸収など大型発電との調和を取りながら研究開発を推進すべきと考えます。

{ \* : 数値に対しては吟味が必要だが、大きな変革をもたらす値として設定すべき }

3. 研究開発の進め方に対して

- ・次の3点の手順を進めることを提案します。
  - 明確なターゲットを持つビジョンの設定。
  - そのビジョンを実現するためのシナリオ策定。
  - それに基づき、開発すべき要素技術の目標にブレークダウン。(自然科学のみでなく、人文社会科学的システムの検討も含める)

ターゲット及び各要素技術の目標値によっては開発すべき要素技術の再検討も必要になると考えます。

以上